[事案 2019-25] 新契約無効請求

・令和元年9月18日 裁定終了

<事案の概要>

高度先進医療特約が付加されていると誤信して契約したこと等を理由に、既払込保険料の返還を求めて申立てのあったもの。

<申立人の主張>

平成22年5月に契約した限定告知型医療保険について、以下の理由により、既払込保険料を返還してほしい。もしくは、本契約にがん保険を付加して同額保険料で継続してほしい。

(1)契約に際し、募集人から、高度先進医療特約が付加されていると説明され、高度先進医療特約はあらゆるがんに使える保険であると誤信して契約したが、実際には同特約は付加されていなかった。

<保険会社の主張>

以下等の理由により、申立人の請求に応じることはできない。

(1)平成22年2月に標準型の医療保険の申込みがなされたが引受不可となり、限定告知型である本契約が申し込まれたが、当時、申立人からがんに特化した保険（がん保険）を希望するという話は受けていない。

(2)募集人が、申立人から高度先進医療特約はがんになると使えるのかと尋ねられ、大丈夫ですと返事をしたというやりとりはなく、高度先進医療特約とがん保険とが同じ内容であると誤解が生じるようなやりとりもない。

<裁定の概要>

1. 裁定手続

裁定審査会は、当事者から提出された書面にもとづく審理の他、契約時の状況等を把握するため、申立人および募集人に対して事情聴取を行った。

2. 裁定結果

上記手続の結果、申立人が、本契約に高度先進医療特約が付加されていると誤信し、または高度先進医療特約はあらゆるがんに使える保険であると誤信していたとは認められず、その他保険会社に指摘すべき特段の個別事情も見出せないことから、和解による解決の見込みがないと判断して、手続を終了した。